

都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

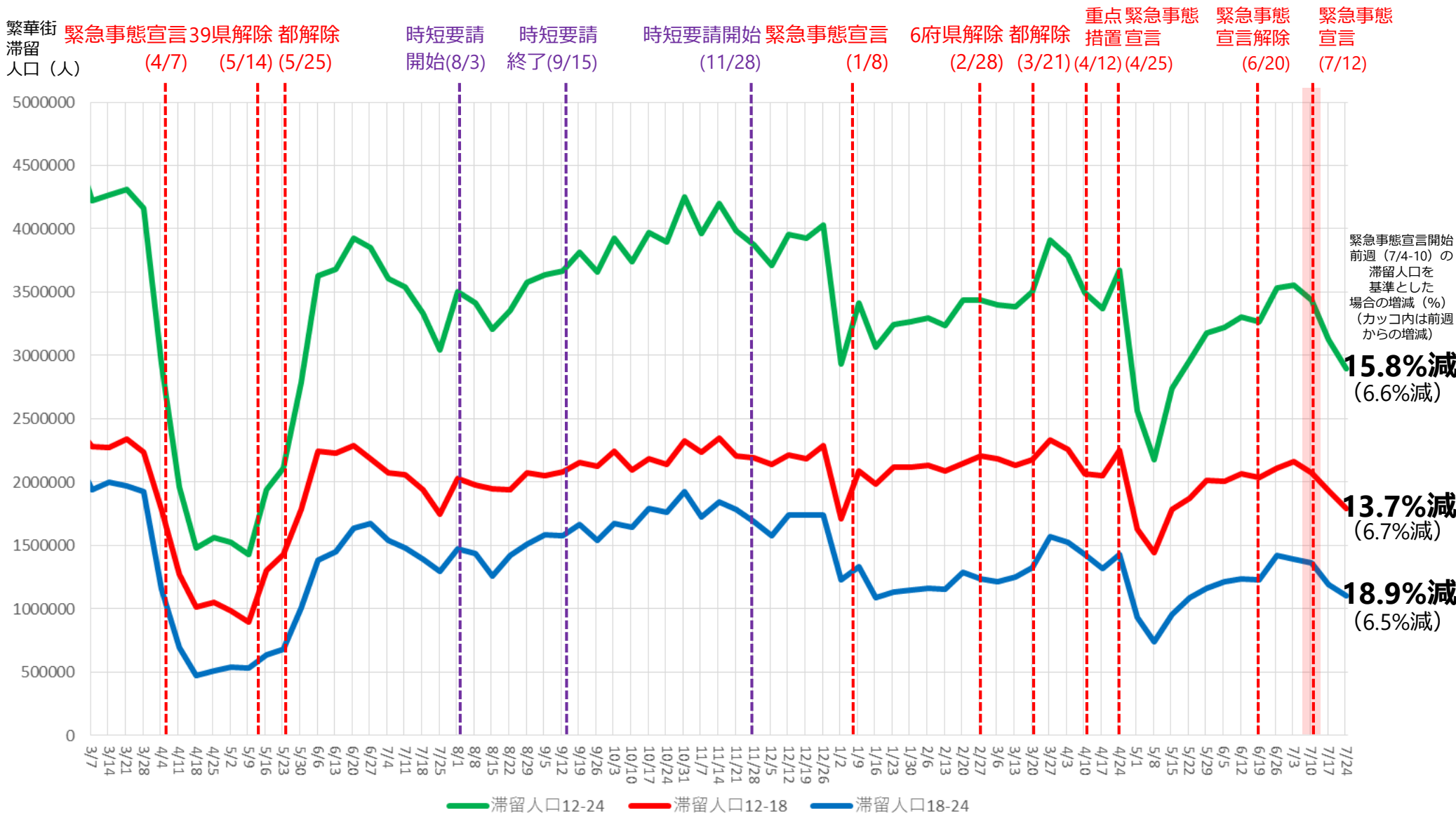
東京都医学総合研究所
社会健康医学研究センター
西田 淳志

都内主要繁華街 滞留人口モニタリング

<要点>

- 宣言発令後の直近2週間で、レジャー目的の繁華街滞留人口は減少（夜間：18.9%減、昼間：13.7%減）。夜間滞留人口は4週連続減（5週前との比較：22.4%減）。
- しかし、今回（4回目）の宣言発令後2週目までの滞留人口の減少率を前回（3回目）のそれと比較すると、昼間・夜間ともに40%程度にとどまっている。特にハイリスキな深夜帯（22～24時）の滞留人口の減少が鈍く（前回：48.5%減、今回：12.7%減）、依然として高い水準で推移している。
- 感染力の強いデルタ株への置き換えが進む中で、新規感染者数を減少に転じさせるには、前回宣言時と同程度の水準を目指してさらに人流を減少させる必要がある。

時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2021年7月24日）



時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：東京（2020年10月1日～2021年7月28日）

緊急事態7/12-

繁華街
滞留人口
(人)

時短要請開始
(11/28)

緊急事態宣言
(1/8)

6府県解除
(2/28)

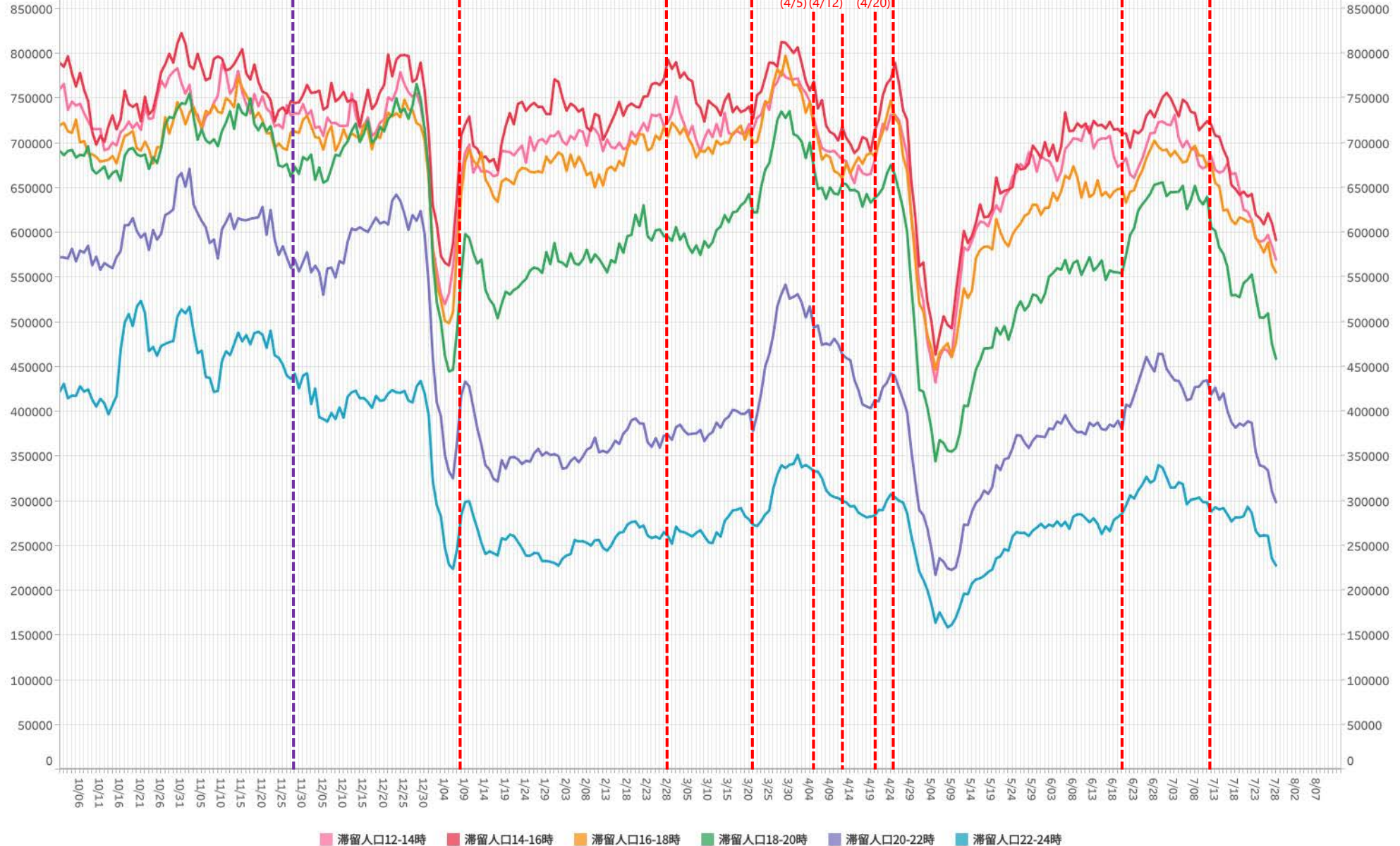
都解除
(3/21)

3府県3都府県4県
重点重点
措置措置
(4/5)(4/12)

緊急事態宣言
(4/25)

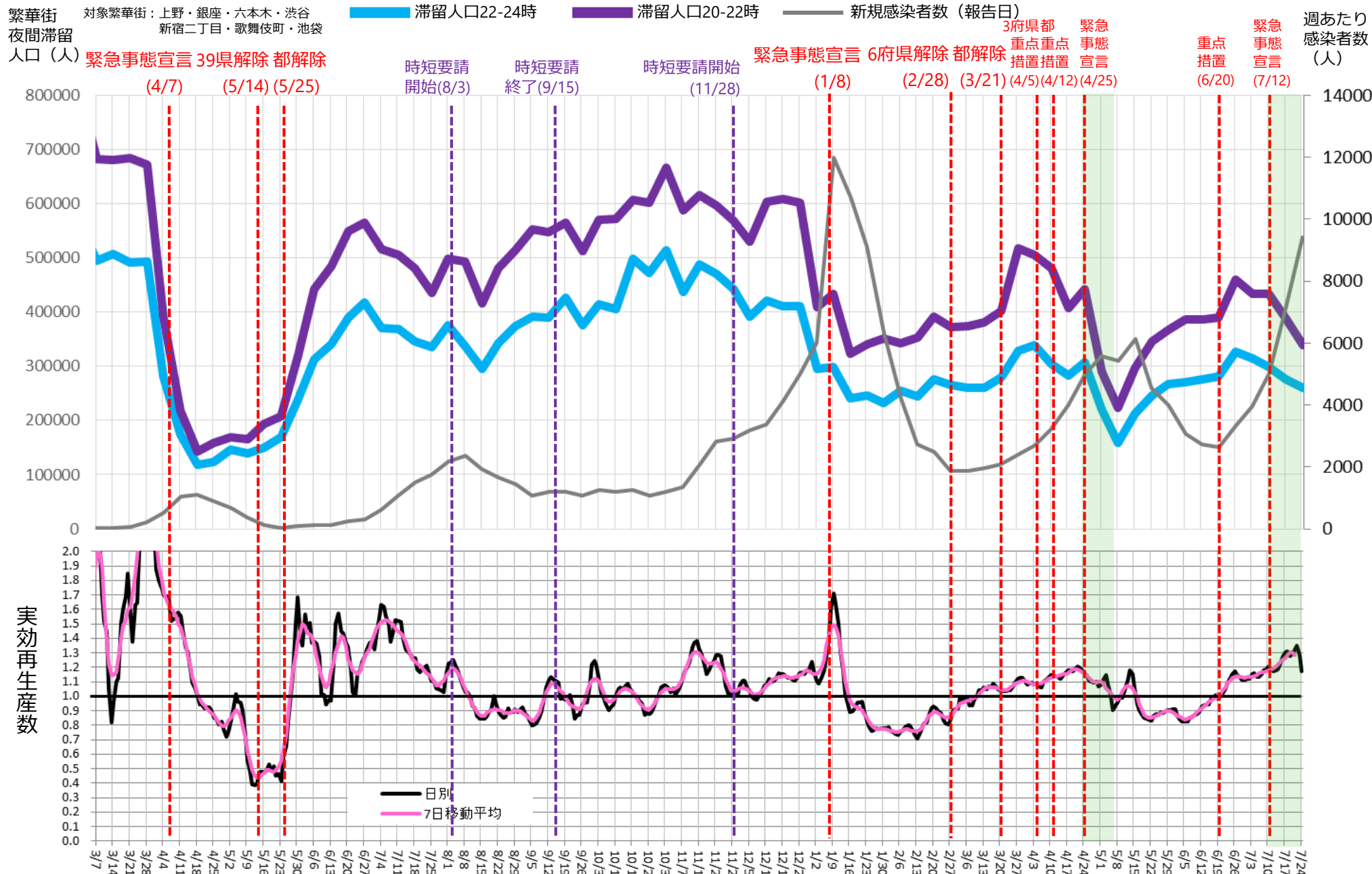
重点措置
(6/20)

緊急事態宣言
(7/12)



主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数:東京 (2020年3月1日~2021年7月24日)

緊急事態7/12-



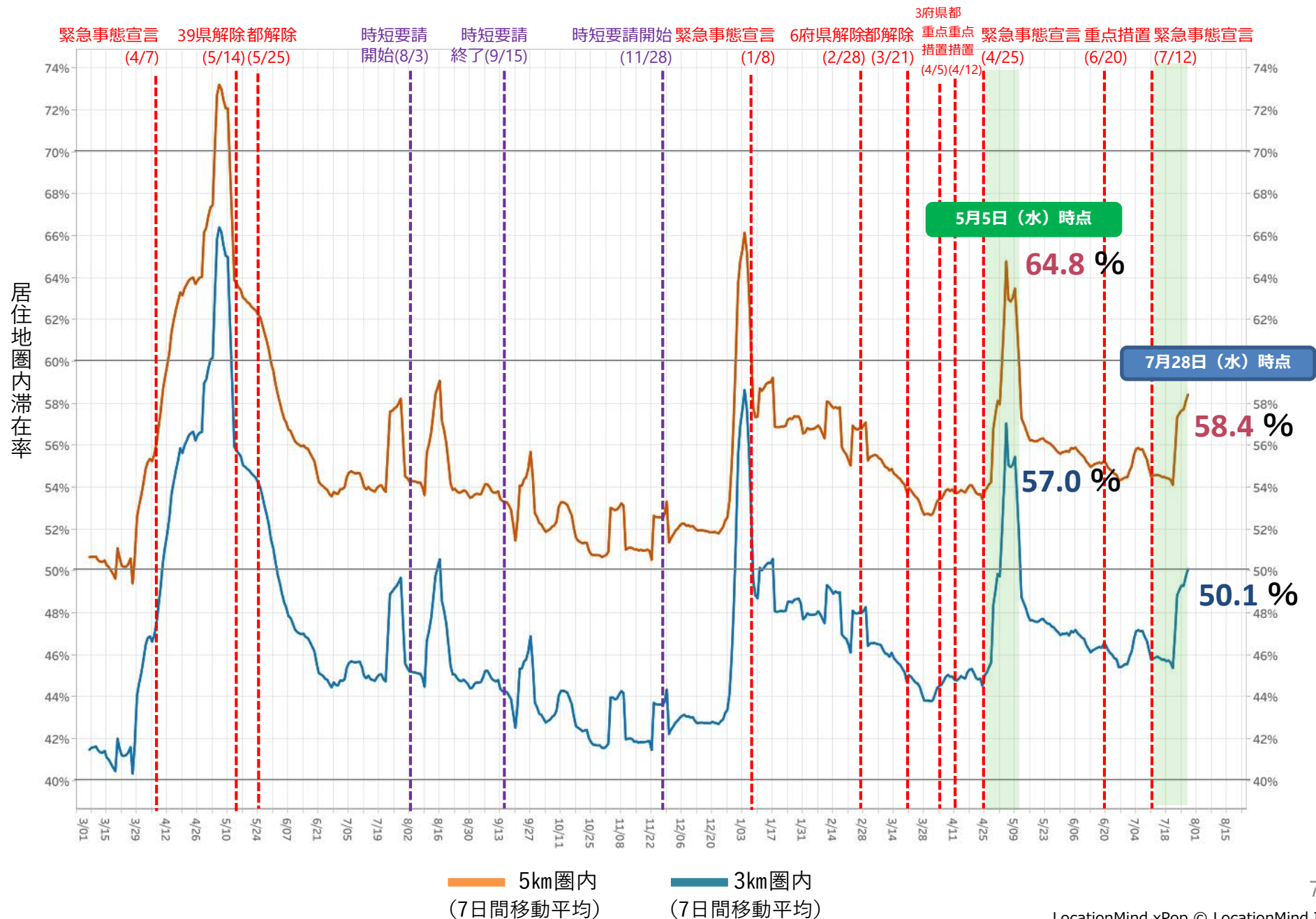
東京：前回（3回目）と今回（4回目）の 緊急事態宣言後2週間のレジヤ-目的滞留人口減少率

	3回目緊急事態宣言 2週間後（21.5.2-5.8）※1	4回目緊急事態宣言 2週間後（21.7.18-7.24）※2
全体（12-24時）	40.7%減	15.8%減
昼間（12-18時）	36.0%減	13.7%減
夜間（18-24時）	48.2%減	18.9%減
18-20時	47.3%減	20.0%減
20-22時	49.3%減	21.7%減
22-24時	48.5%減	12.7%減

※1 3回目緊急事態宣言直前の週（21.4.18-24）の繁華街滞留人口を100%とした場合の比率

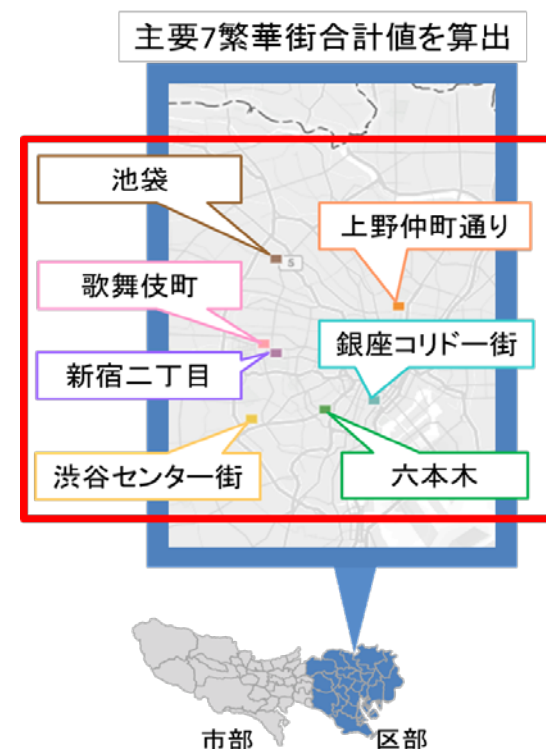
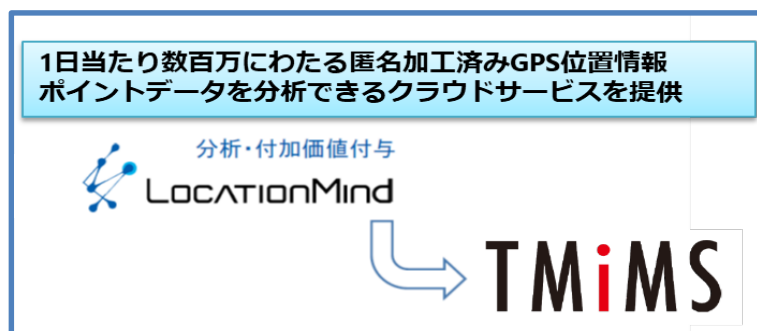
※2 4回目緊急事態宣言直前の週（21.7.4-10）の繁華街滞留人口を100%とした場合の比率

ステイホーム指標（2020年3月1日～2021年7月28日）：東京都内全域



ハイリスクな人流・滞留を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**レジャー目的の人流・滞留を推定**※
- **主要繁華街**にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出
- ハイリスクな時間帯の人口滞留量を
1時間単位で推定(500mメッシュ単位)
- **LocationMind ⇒ 都医学研 ⇒ 東京iCDC**



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、
職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

※レジャー目的の滞留人口をより正確に把握するために2021年7月より繁華街滞留人口の推定方法を改良している。

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。